# 山口県病院協会会報

<sup>2018</sup> 新年号 No.58

- ●発行日 平成30年1月1日
- ●発行所 一般社団法人山口県病院協会 〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- ●電話 083-923-3682
- ●FAX 083-923-3683
- ●発行人 木下 毅
- ●印刷所 大村印刷株式会社
- ●メールアドレス info@yha.or.jp
- ●ホームページ http://www.yha.or.jp



# 年頭のご挨拶

会長 木下 毅

あけましておめでとうございます。

平素から山口県病院協会の運営にご協力いただきありがとうございます。引き続き今年もよろしくお願いいたします。

4月には医療保険・介護保険の同時改定があります。地域包括ケアシステムの構築を支援する改定になる可能性が大です。すなわち在宅医療の充実をうたう方向が

みえて来ていますが、実際にどのようになるかはまだわかりません。使い良い報酬になる事を願っています。財務省は「診療報酬マイナス改定を」と言っていますが僅かながらの本体プラス改定になりそうです。技術料を医師の人件費と言っていますが医療・介護では多くの職種の人々が働いています。官邸は一般産業に給与の3%アップを求めていますが、医療界もそれに同じにしないと職員が集まりません。それには診療報酬のプラス改定が必要です。山口県は人口減少もいわれていますが、医師の高齢化、医療・介護従事者の不足がみられ、ますます厳しさが増しそうです。制度の簡素化、書類をへらす等の間接的な業務の合理化を進めないと、医療崩壊を招きかねないと思います。地域医療構想に示されている病床数が確保できない事態も起こり得るかもしれません。地域包括ケアシステムは介護が中心となって作ろうとしているシステムですが、医療のサポートがなければできません。病院が主役ではありませんが、どうやってこのシステムを支えるかで、システムの完成度が異なってくると思われます。

地域医療構想も各医療圏で進められていますが医療圏によって温度差があるようです。昨年9月の医政局の事務連絡では、「急性期や慢性期の病棟にも回復期の患者が一定程度存在するので、回復期を担う病床が大幅に不足し必要な回復期医療を受けられない患者が多数生じている状態ではないと考えている。」と今までの態度を一変しています。今後の地域医療構想調整会議の進め方に影響が出てくるでしょう。また病床機能報告と診療報酬は連動しないとの事なので急性期病棟が病床機能報告で回復期機能と報告し急性期の診療報酬を請求することは問題ないし、療養病床で在宅復帰機能加算している病棟は回復期機能として病床機能報告する事も可能と考えられます。

いずれにしても医療を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。会員の皆様の一層のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

今年が会員の皆様にとって良い年であるように願っています。

### CONTENTS (目次)

山口県病院協会会長挨拶	1ページ
山口県健康福祉部部長挨拶	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5ページ
研修会報告	6ページ
秋の叙勲	7ページ
諸会議報告	7ページ
お知らせコーナー	8ページ

# 年頭所感

# 年頭所感



山口県健康福祉部 部長 岡 神爾

明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお喜びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、今年が良い年となりますことを心からお祈り申し上げます。

また、平素は、本県の医療行政の推進に格別の御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本格的な少子高齢社会を迎える中、一人ひとりのいのちが大切にされ、不安な く暮らせることは県民生活の基本であり、生涯を通じて健康で安心して暮らすことがで きるよう、必要な医療と介護が切れ目なく提供されることが重要です。このため、県で は、医師や看護師等の確保・育成をはじめ、医療機能の分化・連携の推進、がん対策や 救急医療体制の充実、地域包括ケアシステムの構築等に総合的に取り組んでおり、引き

続き計画的に推進してまいります。

また、将来にわたって活力ある社会を築いていくためには、人口減少問題への対応は県政の最重要課題であり、 少子化の流れを変えるためには、社会全体で結婚や妊娠・出産、子育てを支える環境づくりが重要となることか ら、周産期医療や小児医療の充実等についても引き続き積極的に取り組んでまいります。

そうした中、本年度は、本県における総合的な保健医療提供体制の指針となる医療計画の改定の年にあたることから、「第7次山口県保健医療計画」の策定を進めているところです。

本計画は、少子・高齢化の進行や生活習慣病の増加など疾病構造の変化、情報化の進展など、医療を取り巻く 状況の変化に対応しながら、より県民のニーズに即した良質かつ適切な保健・医療サービスを提供できる体制の 整備を計画的に推進するためのものであり、現行計画に引き続き、5疾病・5事業及び在宅医療について、各医 療機関相互の連携体制の構築を図ることとしています。

もとより、こうした施策を着実に進めていくためには、病院協会の皆様のお力添えが不可欠と考えていますので、一層の御支援と御協力を賜りますようお願いします。

さらに、今年は、明治改元から150年を迎えるという大きな節目でもあります。県では、明治150年プロジェクトの中核イベントとして、「山口から開花する、未来への種まき。」をテーマに本年9月14日から11月4日までの52日間、山口きらら博記念公園において、「山口ゆめ花博」を開催いたしますので、皆様方の積極的な御参加・御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

終わりに、皆様の今年1年の御健勝、御多幸を祈念して私の年頭のあいさつとさせていただきます。



# 協会役員コーナー

# 昭和が明治になるとき



周南市立 新南陽市民病院 病院長 **松谷 朗** 

明けましておめでとうとございます

子供の頃は明治生まれの人がいても何も特別なことではなかった。しかし高齢患者でも明治生まれの人を見なくなってから入しい。来年、平成は終わり、かつての大正扱いになる日がやがて来る。そうすると我々は明治生まれの扱いになる。なんやらえらく爺さんになったものだと、ため息がでる。「Ars longa, vita brevis アルス・ロンガ,ウィータ・ブレウィス(芸術(医学)は長し、人生は短し)」とかつて解剖学の教授が言っていた。ヒポクラテスの言葉らしいけど。その言葉通り、糖の代謝が全て頭に入っているような糖尿病の医師・研究者になりたいと思っていた30代からあっという間の30年。

綾小路きみまろの漫談のようだが。少年老い易く学成り難しとはまさに自分の事だと感じる。自分の理想の半分にも達してない糖尿病の医師。新しい機器や薬が次々に出て来る。糖尿病は奥が深い。碁も農作業も奥が深い。やりたいことが多過ぎる。釣りも大物が狙いたいけど全く時間が取れない。テニスも散々理論を研究してトレーニングしたつもりでも、試合になると、初心者にもポロリと負けてしまう。後20年くらい院長をやったらいい病院に出来るかもしれない、毎年大幅黒字の病院にできるかもしれないとおもいつつ、新年を迎えています。

# 新年のご挨拶



医療法人 玖玉会 玖珂中央病院 理事長 吉岡 春紀

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月から山口県病院協会の理事としてお世話になっております。

医療情勢はますます厳しくなり、今年も医療・介護報酬の同時改定では本体部分にも影響がありそうです。医療経済実調からも一般病院の損益率マイナス4.2%に悪化との報告も有り、日医の中川副会長も中医協の席で「今回の結果は近年になく悪い。特に病院が悪い。プラス改定にしなければならないのは明白だ」と強調されたように、診療報酬の改定は病院関係者に大きな問題となることは予測されます。

診療報酬だけでなく、今後の地域医療を維持して行く事が出来るかどうかの大問題が、 26年から始まった病床機能報告制度とその結果による地域の病床再編計画です。

医師会内でもほとんどの医師が知りませんし、病院関係者にとっても病床再編の具体的な案が示されずに進んでいる事で、どう対応したら良いのか解らないのが現実です。地域医療圏の必要病床数の設定や認可は県知事の権限ですが、病床再編は国の設定であり県を飛び越しての基準作りです。医療圏の「地域医療構想病床機能検討部会」なる会に参加していますが、病床の再編案・減床数・転換案など具体的な対応案は何も示されていないのです。不安な1年になりそうです。県病院協会でも県医師会と協調しながら各医療圏の話し合いの相談者としてお手伝いする必要があるのでは無いかと思っています。

# 病院スタッフコーナ

# 患者様自身の物語



医療法人社団 青山会 リフレまえだ病院

福祉相談課 課長代理 小林 丈己

あけましておめでとうございます。

当院は山口県の東部、岩国市玖珂町にあります精神科病院です。当院院長の理念とし て、「患者様によかれと思うことはなんでもトライしてみる |、「患者様ひとりひとりに あわせたオーダーメイドの治療」というものがあります。108床という小規模の病院で あるからこそ、それを実現するために、デイケア・デイナイトケアや訪問看護といった 医療サービスだけでなく、自立訓練施設、グループホーム、障害者支援センターといっ た社会福祉施設の充実に努めて参りました。これによって、精神科疾患を発症した患者 様の治療だけでなく、社会復帰から再発予防まで、幅広いニーズに対応できる体制作り に励んでいます。こうした取り組みの中で、患者様からの就労希望も根強くあったこと から、平成29年10月からは就労継続支援B型(定員10名)も立ち上げました。

患者様の活動の場が広がることで、治療の対象者としてだけではなく、「生活者」や「働 き手」として、社会と関わって生きられる姿を目の当たりに出来ることになり、それは単純に嬉しく、業務を振 り返る上でも勉強になります。

私個人の話をさせて頂くと、丁度今年が15年目になります。これまでに様々な患者様と出会い、色々な経験を させて頂き、たくさんの発見と思い出が積み重なり、医療従事者としての経験(ロマンチックな言葉にすると『物 語』(笑))になっています。その経験は「今日、自分が出会う患者様も、病気と共にでも御自身の『物語』を生 きていける」という見通しとなり、日々「これで大丈夫かな?」と感じる不安や焦燥感の盾にもなっています。

毎日が忙しいと、このようなことを振り返る余裕も無くなり、業務の本質を見失いそうになることもあります が、新年にこのような機会を頂けたことで改めてじっくりと見直すことが出来ました。ありがとうございます。

# 多職種連携の強みを生かしたチーム医療を目指して



徳山リハビリテーション病院 リハビリテーション部 宗貞 行浩

明けましておめでとうございます。

当院は、周南市の東に位置し、近隣には周南西緑地公園があり、四季を感じながらリ ハビリテーションを行うことが出来ます。病床は120床全てが回復期リハビリテーショ ン病棟で在宅支援センターを有し、「高度なリハビリテーション医療を真心こめて」の 理念のもと、患者様を中心に多職種と連携を取りながらリハビリテーションを進めてい

当院の特徴として、看護師やセラピストなど多職種が同一病棟での配置となり、協働 をしながらチーム医療を進めています。チーム医療で課題となるのが多職種連携です。 そこで回復期リハビリテーション病棟協会には、質の向上を目的にした「回復期セラピ ストマネジャー」、「回復期リハビリテーション看護師」の認定制度があります。リハビ リテーション医療のみならず、多職種連携、教育や管理などを学び、多職種を含むフロ アーをマネジメントすることを目的にしています。当院では私を含むセラピスト5名が

認定され、各職種の認定者1名ずつを病棟に配置する体制を取っており、多職種連携、人財育成をしながら、患 者様に質の高いリハビリテーションを提供しています。

最後に、組織にとって人は財産です。平成30年度は医療保険・介護保険の同時改定があり、様々なことで柔軟 な対応が必要になると思います。地域の住民へ安心安全なリハビリテーションを提供できる人財を育成し、当院 の理念を実現するためにチーム一丸となって取り組んでいきたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。

# 病院スタッフコーナー

# 地域に開かれた医療を目指して



医療法人 杏祐会 三隅病院 精神保健福祉士

山田 和範

あけましておめでとうございます。

当院は山口県の北西部の長門市三隅に位置し、海・山・田園に囲まれ療養に適した自 然豊かな環境を有する精神科病院です。私たちは地域に必要とされ、地域に開かれた病 院となるように努め、患者様が早期に社会復帰できるよう、職員一同で「こころ通うあ たたかく質の高い医療」の提供を目指しています。

超高齢化社会を迎えているなかで山口県より指定を受け、当院は平成29年10月1日よ り認知症疾患医療センターの運営を開始しました。

役割として ①医療相談 ②鑑別診断とそれに基づく初期対応の実施 ③周辺症状、身 体合併症への急性期対応 ④連携協議会、研修会の実施 ⑤情報発信があります。連携協 議会や研修会の開催は、地域の関係機関や地域の皆様の声を聴くことができる良い機会 であり、今後の業務に活かしていきたいと考えています。

さて、私は精神保健福祉士として勤務し初診・入退院・訪問看護に関わっており、その中で様々な相談に対応 しております。お会いするたびに病状・環境が変化されていることが多々あり、そのたびにニーズと課題の整理 を行っています。その際に注意しているのは、お仕着せでなく個々の希望を大切にし、支援を進めていくことを 常に考えることです。その反面、病院職員の立場から当事者の方へ助言せねばならないことがあります。これま でに築いた信頼関係が良いものであれば快く話を聞いていただけることがありましたが、信頼関係を構築するこ とに悩むことが多々ありました。趣味をお持ちの方は多いので、本題以外でその話をすると心を開いていただけ ることもあります。また、環境を変えて散歩をしながら話をするなどの工夫もしました。

今後も人との関わりを大切にし、自分自身も成長していきたいと考えています。

### 挑戦



医療法人社団 向陽会 阿知須同仁病院 看護部長

神屋 美由紀

新年あけまして おめでとうございます。

当院は、一般病棟30床・医療療養病棟48床・介護療養病棟60床、急性期から在宅支援 まで地域に根ざした医療を目指しています。又、現在、介護療養病棟転換に向け病院一 丸となって今後の問題に取り組んでいます。

近くにはきららドームがあり、各種イベントがあり賑やかです。

私は、当院に勤務し30年を迎えます。毎年新年には、今年こそは新しい事に挑戦しよ うと思うのですが、実行出来ないまま1年が過ぎていました。しかし昨年は職場の人に 誘われ登山に挑戦しました。

学生時代から運動をしていなかった私は、登れるか心配でしたが、下山後の温泉・食 事が計画されており、それが目当てで参加を決めました。

当日は、天候もよく登山日和でした。リーダーの方の指導でゆっくり何度も休憩をと りながら登りました。途中すれ違う方との挨拶、頂上での景色、遠くの景色を見ながら

説明してくださる方、皆さんとても親切でした。

下山後は、楽しみにしていた温泉でゆっくり疲れをとり、会話をしながらの美味しい食事で一日の疲れを癒し 帰宅しました。

足の疲れは残りましたが、私にも登れたという満足感と自信の持てた一日でした。今年は何に挑戦しようか考 え中です。

### 研修会報告

#### 平成29年度 病院中堅看護師研修会

平成29年10月4日(水)山口県総合保健会館第一研修室において病院中堅看護師研修会が開催され、113名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

#### 【研修会】

テーマ 「地域包括ケア時代の病院と地域を繋ぐための看護の視点」

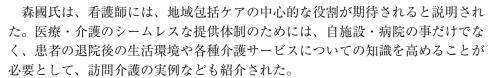
講 師 医療法人社団 松涛会

地域包括ケア推進部長 森國 秀美 氏

テーマ 「今 望まれていること」

講 師 医療法人神徳会 三田尻病院

看護部長 種田 嘉子 氏



続く種田氏も看護師はチーム医療のキーパーソンとし、病院と在宅・地域をつなぐ役割を果たしてほしいと講演され、熱心な参加者が研修会終了後に個別に質問する姿も見られた。



森國 秀美氏



種田 嘉子氏



研修会風景

#### 平成29年度 病院看護補助者・介護職員研修会

平成29年12月4日(月)山口県総合保健会館第一研修室において病院看護補助者・介護職員研修会が開催され、156名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

#### 【研修会】

テーマ 「コミュニケーションのとり方

~安全や接遇の改善につながり働きやすい職場へ~ |

講 師 医療法人和同会 宇部リハビリテーション病院 看護部長 西島 陽子 氏

テーマ 「社会(職場)に対応、応用する人間力を磨こう ~能力は開発できる!!~」

講 師 医療法人愛の会 光風園病院 看護統括部長 中尾 郁子 氏

西島氏は、笑顔とコミュニケーションを向上させることは接遇の為だけでなく、 エラー防止・医療安全にもつながると解説され、笑顔トレーニングや隣の人と協力して行うゲームなども取り入れた研修となった。

中尾氏は、行動特性を高めていくポイントについて講演された。人材不足が問題となっている介護の現場を踏まえ、ストレスをため込まず前向きに仕事に取り組むべく、人間力を磨く方法を示された。



西島 陽子氏



中尾 郁子氏



研修会風景

平成29年秋の叙勲におきまして、当協会副会長で 小野田赤十字病院名誉院長の水田 英司先生が保健 衛生に尽くされた功績により、瑞宝双光章を授与さ れました。

心よりお祝い申し上げます。

今後ともご健康に留意され、地域医療の更なる充 実発展の為に尽くされることをご期待申し上げます。





上:瑞宝双光章

左:水田英司先生、奥様と

### 諸会議報告

#### 平成29年度 第4回理事会

時 平成29年11月14日 (火) 15:30~17:00 開催場所 新山口ターミナルホテル

#### 【承認事項】

- 1. 平成29年度山口県病院協会収支予算の執行状況 について
- 2. 第20回山口県臨床工学技士会ME機器セミナー 7. 県各種委員会等の結果報告について の後援について
- 3. 病院看護部長研修会について
- 4. 事務長部会研修会について
- 5. 冬季医療経営講習会について

#### 【協議事項】

- 1. 「理事長、院長に問う、医師の過重労働対策」 アンケート調査表について
- 2. 平成30年度定時総会時の特別講演について
- 3. 山口ゆめ花博(第35回全国緑化やまぐちフェア) について

#### 【報告事項】

- 1. 地域医療構想・病床機能報告における回復期機 能について
- 2. 地域医療構想調整会議の進め方に関する留意事 項について
- 3. 優良看護職員の厚生労働大臣表彰について
- 4. 山口県選奨 保健衛生・環境功労賞受賞について
- 5. 第13回医療関係団体新年互礼会について

- 6. 県行政委員等の推薦について
  - ·山口県医療対策協議会委員 会長 木下 毅 (再任)
  - · 山口県肝炎対策協議会委員 理事 村上 不二夫 (新任)
  - ·山口県医療対策協議会委員 監事 尾中 宇蘭(再任)
- 木下会長
  - · 山口県医療審議会医療法人部会

(10月24日)

髙橋常任理事

· 山口県高齢者保健福祉推進会議

(9月14日)

#### 【その他】

1. 第7次山口県保健医療計画について

#### 平成29年度 第3回情報管理委員会

日 時 平成29年12月19日 (火) 15:00~17:00 開催場所 新山口ターミナルホテル

#### 【協議事項】

- 1. 新年号の発行について
- 2. 4月号の発行準備について
- 3. その他

# お知らせコーナー

#### 平成29年山口県選奨受賞(山口県病院協会推薦)

教育や芸術、文化、スポーツの振興、産業や福祉などに功績があった人をたたえる県選奨の表彰式が11月17日県庁で行われ、保健衛生・環境功労部門において、元山口県病院協会理事の佐柳 進先生(医療法人茜会 昭和病院 病院長)が受賞されました。

佐柳先生は、国家公務員として厚生行政に貢献してこられ、平成14年から現在に至るまで病院経営者として地域医療の発展に尽力されておられます。その功績は顕著であることにより、県選奨受賞となりました。

心よりお祝い申し上げます。

なお、山口県病院協会の推薦以外でも、現理事の吉岡 春紀先生(玖珂中央病院理事長)が県選奨を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。





山口県庁にて、奥様と共に

#### 優良看護職員の厚生労働大臣表彰を受賞

平成29年11月20日、宇部興産中央病院・健康管理センター長の山本多賀子氏が、東京プリンスホテルで行われた公益社団法人日本看護協会創立70周年記念式典において、優良看護職員の厚生労働大臣表彰を受賞されました。おめでとうございます。





山本 多賀子氏

#### 病院協会の主な行事予定

金融懇談会

○4月3日

○1月16日	第5回理事会	(会場:山口グランドホテル)
○1月23日	総務委員会	(会場:新山口ターミナルホテル)
○1月26日	四県病院協会連絡協議会	(会場:山口グランドホテル)
○1月30日	看護部長研修会	(会場:山口グランドホテル)
○2月23日	第2回事務長部会研修会	(会場:山口グランドホテル)
○3月9日	県医師会・県病院協会懇談会	(会場:未定)
○3月13日	冬季医療経営講習会	(会場:山口グランドホテル)
○3月16日	正副会長・顧問会議	(会場:古稀庵)
○3月20日	診療報酬改定説明会	(会場:山口県総合保健会館)
○3月27日	第6回理事会	(会場:新山口ターミナルホテル)

編集後記 新しい年を迎えました。平成30年が、穏やかで、明るい一年であることを祈ります。◆世界の 先頭を走っている少子高齢化への対応が、国の大きな政策の一つとなっています。平成28年の 年間出生者数は、初めて100万を割りました。また、一方、100歳の誕生日を迎えられた人は、年間で3万人 を超え、いよいよ人生100年の時代の到来を感じます。◆少子高齢化の進行により、財政的にも、また、今 後に予想される働き手人口の減少によっても、日本は追い詰められている様です。みんなで築いてきた医療 や福祉を存続させていくためには、国民も、医療機関や介護施設も、そして行政も、みんなが現状を理解し、 納得した上で、痛みを分かちあって、それぞれの立場で努力していく以外に道はないようです。◆つらい戦 争を経験し、右肩上がりの成長を遂げた昭和は、ますます遠くなりました。 (名西史夫)

(会場:未定)